

なごや在宅医療・介護連携ハンドブックに関するアンケート 結果

令和7年10月22日（水）

第4回ケアマネジャー委員会

ケアマネジャーと病院の交流会

参加者 56名

回答者 51名

1.参加ご自身について

①所属

病院	19
診療所	0
歯科診療所	0
薬局	0
訪問看護ステーション	0
居宅介護支援事業所	29
地域包括支援センター	0
その他	1

②職種

医師	0
歯科医師	0
薬剤師	0
看護師	5
介護支援専門員	31
リハビリ職	0
介護職	0
MSW・相談員	14
その他	1

2.講義について

①内容はいかがでしたか

大変良かった	30
良かった	18
普通	1
悪かった	0
大変悪かった	0
無回答	2

②時間は適当でしたか

長かった	3
やや長かった	1
適当	46
やや短かった	0
短かった	0
無回答	1

3.なごや在宅医療・介護連携ハンドブックについて

①講義参加前、なごや在宅医療・介護連携ハンドブックの冊子をご存知でしたか

冊子があることは知っている	48
知らなかった	3

(冊子がある事は知っているの回答者のみ) 冊子の内容はどのくらい理解していたか

理解している	9
ある程度理解している	30
あまり理解していない	9
理解していない	0

②講義参加後、なごや在宅医療・介護連携ハンドブックを理解することができたか

非常に理解できた	14
ある程度理解できた	37
あまり理解できなかった	0
全く理解できなかった	0

③②で回答した理由を教えてください (原文まま)

- ・カバンの中に入れてあります。
- ・入退院時の情報提供は別の支援経過サマリーを使用していたが、今後はハンドブック内の入院時情報提供書を活用していきたいです。
- ・講話の中で、ハンドブックの内容に触れていただいたおかげで、改めて内容の理解が深まりました。
- ・入退院時のポイントが分かりやすく、今回の研修でさらに理解ができた。
- ・病院側の苦労や思いも分かる事ができた。
- ・ケアマネジャーとして行う事、他職種の行う事の理解ができた。
- ・病院に積極的に行ってよいと聞くことができ良かった。
- ・自分から情報を取りに行くことが大切。(受け身ではいけない)
- ・内容が分かりやすく充実していた。
- ・医療職との連携は必然だ。
- ・病院のMSWや看護師と連携方法などがより分かりました。
- ・他職種の方が何を意識して働いているか知ることができた。
- ・事前にハンドブックの内容を知っていたが、今回参加して更に理解できた。
- ・職種によって得られやすい情報が異なる。
- ・病院側が欲しい情報、本人のキャラクター、キーパーソン、金銭面について情報があると良いとの事が聞けて良かった。
- ・病院と在宅で知りたい情報を共有できた。
- ・病院と在宅で欲しい情報が違う。
- ・情報シートはそれぞれの機関で異なり工夫していると知った。
- ・各職種の視点があること
- ・それぞれの持っている情報がお互いに必要なものなどあり、共有できることは大切だと考えました。
- ・訪問看護導入の流れなどを確認することができました。
- ・職種でそれぞれ適切なタイミングが異なる事を知る事ができました。
- ・連携していくことで大きな成果につながる。
- ・それぞれの職種の役割から、欲しいと思う情報が理解できました。
- ・分かりやすくまとめてあるので、新しいケアマネジャーなどに向けて活用していただきたい。
- ・入院時のフローや注意点などが分かりやすくまとめられていました。
- ・細やかな情報まで記載された在宅サマリーの出所がわかりました。FAXだと文字がつぶれて見えないことがあります。

④多職種連携を実践する上で困難とを感じる点について、具体的にご記入ください（原文まま）

- ・在宅で生活できるかどうかの評価が職種によって違う場合、本人の意向を踏まえ、チームが同じ方向に向かうための具体的な調整が難しい。
- ・各職種の視点や大切なことがあれば欲しい。
- ・各職種の方に良く助けていただいております。
- ・関係者が多い場合は、カンファレンス等の日程調整が難しい。
- ・在宅生活を送るにあたっては、CMに情報を集約してそこから情報共有していけるようにしたい。
- ・家族がいないケースでの支援体制の構築。
- ・生活保護受給者についての身元保証。
- ・ACPのきっかけをつくるために、病院からカンファレンスの時に予後を本人や家族に伝えて欲しい。
- ・家族の協力などが得られない場合に、家族と病院の考え方の違いが出た時にどの様にすればよいか悩む。
- ・在宅に戻るとき、入院カンファレンスにケアマネだけ出席して本人の状態を他職種が知らないときの説明。
- ・担当者会議の日程を調整するときに、来て欲しい事業者と利用者。家族とのすり合わせが難しい。
- ・スケジュール調整。
- ・情報共有のところ。
- ・それぞれの所属する機関の様々な制限がある中で足並みをそろえてよりスピーディに整理していくことが難しい。
- ・サービス拒否がある方への働きかけ。
- ・キーパーソンとなる家族の判断能力や認知がやや心配な時。
- ・主治医との連携。
- ・家族と本人の意向が違う時。
- ・本人の意向がすぐに出てこない事が多いため、分かっている範囲で連携を行う。情報が行き違って来ることが多いので、その都度知らせていくが十分伝わらない事も多い。
- ・退院前カンファレンスを行う際に日程調整だけでかなり時間がかかってしまう事。
- ・本人と家族の意向が違う場合。本人は早く家に帰りたい、家族はもう少し入院してから帰りたい。
- ・入院中の様子や情報共有をしっかりとってくれる病院はありがたいが、そうでない病院もあります。
- ・情報共有が難しい。サービス担当者会議だけでは、共有できないことがある。（家族の不参加など）
- ・病院によってはケースワーカーさんの関わりが難しいところがある。伝えても反映されない等。
- ・意見が合わないときがあり、まとめる時が大変。
- ・本人との意向と家族の意向が違うとき
- ・職種によって温度差がある。連携に時間がかかる。
- ・身寄りがなく頼れる方がほとんどいない方の支援の場合、身元保証を勧めると断られてしまう。
- ・多職種間の支援の方針の共有する場合、方針が少しずれることがある。そのため地域包括ケア会議やカンファレンスの出席を通して方針の共有化を図っている。
- ・利用者が人によって言うことが違う。事業所に言われたことが真実とゆずれない場合もあり、本人の性格の理解や共有が難しい。

⑤他職種との連携において大切にしていることを教えてください（原文まま）

- ・まずは相手の意見を否定せずに聞く。その上で自分の意見を伝え、より良い支援ができるようにする。
- ・情報共有、情報収集、情報提供先との顔の見える関係。
- ・新しい情報はできるだけ早く伝える。
- ・入院時早めに在宅生活、介護サービス、家族状況など、情報共有するようにしている。
- ・入院中にMSWがつかないと、入院中の情報が入ってこず、退院になり本人の話では分からないことが多い。
- ・早めの情報共有を心がけている、
- ・入院前の生活の聞き取り、入院時の経過報告や今後の意向の報告。
- ・相手の分かる言葉を使う。
- ・できるだけ詳細に正しい情報を伝える。

【前のページからの続き】

- ・在宅でいただいた情報は院内で活用する。
- ・患者の情報をできるだけ把握し伝えられるようにしている。
- ・なるべく早めに1回目の会合を開きたい
- ・今後の生活についての意向や治療に対する希望がどうだったか。
- ・お互い（病院・本人・家族・在宅し業者・私）の時間を無駄にしない事。
- ・今後の方針がまとまっていないのに、呼び出され、もめごとの蚊帳の外にされ何時間も無駄にされたことがあったり、結局サービスにつながらないケースもあったので、参りました。
- ・本人の状態。
- ・電話でつたえること。
- ・入院中の状況や情報の把握につとめている。
- ・必要な情報の不足が内容にする。
- ・在宅へつなぐ際の情報共有が、ケアマネが望む情報として出せているかは、思う事がある。
- ・多職種の立場を理解すること。
- ・サービス内容や介護度などは共有。
- ・細やかな情報提供と見える（イメージ）できる情報の伝え方。
- ・情報共有を優先している。
- ・在宅での様子や家族の生活など、なるべく詳しく情報共有できるようにしている。
- ・情報共有すること、相手の時間を取りすぎない。
- ・早期より譲歩の共有を行い、サービス利用について一緒に考えていくこと
- ・病院に来てもらえるよう、積極的に声をかける。
- ・それぞれの職種をしっかりと理解し、必要な情報を得て共有できるように発信するようにしている。
- ・病院からの質問にはできるだけ答えるようにしている。
- ・細かいことや小さな内容でも共有するようにしている。
- ・できれば在宅時より細かい情報を把握しておくことが大切と感じた。
- ・病院側の得たい情報が知られて良かった。
- ・在宅での様子をできるだけ伝えるようにしている。
- ・介入の難しい人の場合は、本人のキャラクターも含め、家族の状況、キーパーソンなどを伝えている。
- ・本人の意向。
- ・分かりやすい情報共有シートを作成する。
- ・相手に迷惑をかけないよう聞きたい情報をまとめておく。
- ・相手側の連携や支援のスタンスを知る事、顔の見える関係、相談しやすい関係。
- ・入院時など早めの情報共有。
- ・情報共有がしっかりできる。
- ・知ってる情報を客観的に共有すること。

⑥講義の内容は今後の実践に活かされますか

活かせる	30
概ね活かせる	15
あまり活かさない	0
活かさない	0
無回答	6

4.本日の講義、また、名古屋市はち丸在宅支援センターに対するご意見やご要望等をお聞かせください

(原文まま)

- ・本日はありがとうございました。
- ・事例提供があるとより話し合いがしやすいのではないかと思います。
- ・今後も今日の取り組みを続けてください。ケアマネジャーとMSWの関係がより良くなるようにしてください。
- ・今日はMSWさんや看護師さんとお話できて勉強になりました。ありがとうございます。年1回は開催していただくと良いです。
- ・お忙しい中ありがとうございました。
- ・在宅支援を担っている、ケアマネジャーの意見を聞いてとても参考になりました。頂いた意見や情報を活かしていきたいと思います。
- ・多職種の方と話をし、もっと気軽に連絡をしたりしてとても良いと思いました。私も受け身にならず、積極的に連携していきたいと思います。
- ・定期的にこのような機会がありましたら、ケアマネジャーの方々と病院との垣根が取れてしやすくなるのではないかと思います。
- ・ありがとうございました。
- ・またこのような機会があれば、参加したいです。
- ・貴重な機会をありがとうございました。
- ・ケアマネジャーさんや他の病院のMSWと情報交換ができてとても有意義な交流会でした。
- ・連携を今後行うときに依頼するタイミングや欲しい情報などを知る事ができて良かったです。
- ・いつもありがとうございます。
- ・楽しく交流会に参加できた。
- ・ありがとうございました。
- ・ハンドブックの修正をするのはどうかと思います。
- ・本日はありがとうございました。大変勉強になりました。
- ・MSWさんとの交流機会が少ないので、貴重な話が聞いて勉強になりました。
- ・毎年少しずつ広がっていくと良いと思います。
- ・本日はありがとうございました。